

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「思いをつたえる手紙を書こう」 教材名「すてきなところをつたえよう」

2 単元の目標

丁寧な言葉と普通の言葉の違いに注意し、相手に合う言葉で手紙を書ける。相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書ける。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉と普通の言葉の違いに注意し、相手に合う言葉で手紙を書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ）	①「書くこと」において、相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書いている。（B(1)ウ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

相手のすてきだと思うところを、自分で見た行動とそのときの思いを添えて手紙に書く。ほめる形容詞だけを並べず、読んだ相手がどの出来事のことか思い浮かべられるようにする。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)キを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

相手の行動を見た場面を絵やメモで表してから文にする。公開や相互評価を嫌がる相手への手紙は扱わない。文を声に出して読み、誰の行動か、どんな思いかを聞き手が返す。おおむね満足できる状況は、相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全10時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○手紙で伝えたい相手と目的を決め、すてきだと思った行動を思い出す。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○出来事と自分の思いを分けてメモし、伝える順を考える。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○下書きを書き、相手に合う丁寧な言葉と、文の続き方を確かめる。	学習状況を見て支援する。
	7 （本時）	○下書きを読み合い、出来事から思いが伝わるかを確かめて書き直す。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○手紙を仕上げ、相手の名前や文の意味を確かめる。届け方は学校の条件に合わせる。	学習状況を見て支援する。
第3次	10	○どの言葉や出来事を書いたことで思いが伝わりやすくなったかを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



6 本時の指導 (7/10)

(1) 本時の目標

相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書ける。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「すてきだと思ったことは、どんな出来事から伝わりますか。そのときの思いと順に読むと、手紙の意味はつながりますか」 【めあて】相手のすてきだと思うところを、自分で見た行動とそのときの思いを添えて手紙に書く。 〈予想される児童の反応〉 ・ やさしいだけでは何のことが伝わらない。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「すてきだと思ったことは、どんな出来事から伝わりますか。そのときの思いと順に読むと、手紙の意味はつながりますか」 相手のすてきだと思った行動とそのときの自分の思いを順に並べて手紙を書く。声に出して読み、誰の行動か、どう感じたかが続けて伝わるか確かめる。相手に合う言葉を選び、意味が通りにくい文を書き直す。 〈予想される児童の反応〉 ・ やさしいだけでは何のことが伝わらない。 ・ してくれたことを書くと、そのときの気持ちが伝わる。 ・ 相手に合う丁寧な言い方にしたい。	相手の行動を見た場面を絵やメモで表してから文にする。公開や相互評価を嫌がる相手への手紙は扱わない。文を声に出して読み、誰の行動か、どんな思いかを聞き手が返す。 想定する難しさ：相手の性格を決めつける言葉になる。出来事がなく、ほめ言葉だけになる。文の主語が変わったことに気付かない。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手の行動と自分の思いの続き方に注意し、内容のまとまりが伝わる手紙を書いている。(手紙の下書き・読み返して直した文)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・ 相手に合う丁寧な言い方にしたい。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「すてきだと思ったことは、どんな出来事から伝わりますか。そのときの思いと順に読むと、手紙の意味はつながりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

